京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

●鮮人と新年

併合の結果自然朝鮮暦は廢棄されて日本暦を奉ずる事となりたれば本年より鮮人が內地人同樣年暮年始の行事を祝すべきは當然の次第なれど實際の事實則ち農業及び商取引の關係もありて今玆に是れに改善を加ふるは事實上不可能なれば本年は勿論今後兩三年は事實上日暦を奉ずる事六ケ敷ければ其悉くと云はざるも槪して依然鮮暦に由るもの多かるべく尤も貴族官吏の如きは日暦を奉ずるに於て何等の支障も見ざれば直に本年より年暮年始の祝儀を行ふべけれど其他の階級に於ては是れ言ふて行はれざる事なれば玆多年は恰も我明治初年のソレと同じく新舊二樣の暦を奉じたる如く日鮮兩暦に由るの現象を生ずべく從つて或階級の鮮人の如きは內地の小都會民のソレの如く日鮮兩暦に由り假令は年暮、年始の祝儀などは前後二度取行ふべき始末となるべし遮莫日暦の正月に際し國旗を出して新春を祝する事なぞは別に手數を要せぬ筈なれば此一事は當局者の注意を俟たずして全道に普及すべく併し是等鮮暦の推移性模倣性に饒む鮮人の事なれば他働的或は自働的により存外早く一洗するの時機あるも知べからずと某氏は語れり

●大邱蠶業傳習所近況

大邱蠶業傳習所は本年度の傳習を終へ目下來年度に於ける施設計劃中なるが槪して成績は良好と云はれざるべく之れ等は傳習期間の餘り短期なると一は鮮人の性癖なる早飮込み所謂早合點の致す處にして生徒等は傳習の實を收むるよりも唯だ其の傳習期間を過ぎ卒業證書を得は足れりとの意思ある者多く是れに付ては篠原所長も餘程苦心矯正に勉めたる結果本年度卒業生の如き既往よりは多少其の實は擧りたる由にて既に本年度卒業生の內より數名の優等者を懇び地方傳習所に敎師として聘用せしめたり又同所開始當時は下層社會の生活に困難せる徒輩の來り入所するもの多かりしが是れ等は蠶業傳習を目的とせず食せらるゝを目的としたる者なりしが一兩年よりは蠶業の將來有望にして國家的有益なる事業なることを知悉し來りて名望家兩班等の子弟の入所するもの多く熱心に傳習しつゝあり來年度に於ては一層充分の施設をなし斯業に盡すべき計劃なりと

●三角測量の經過

朝鮮の土地調査事業に就ては去る六日より着手し大三角の基點を對州に取り夫れより釜山の絶影島及巨濟島に引き以て事業の進捗を謀りつゝあることとなるが本年度は既に慶尙南道より忠淸南北道及ぶ京畿道の半部を終り來年度は江原道南半部、京畿道殘部、黃海道全部平安南北道の西南半部の測量を爲す豫定にして全部の三角測量が結了するは明治四十七年九月なりと云ふ尙ほ大三角の本點と本點間の距離は平均七里半にて補點二里半小三角は一等點一里半二等點二十四丁なりと

和歌募集

勅題「寒月照梅花」　選者　九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月廿五日、發表は四十四年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮つて投詠せられんことを希ふ

十二月二日　本社編輯局

●朝鮮法律の統一

併合前に於ける韓國の法律は韓國の固有法又は日本に關係したるもの等ありてこれが適用に就ては隨分繁雜を極めたるものなるが併合と同時に是等該多の法規も其儘襲踏しあり既に船舶法の如きは朝鮮自身のもの又は總督府幷に遞信省の三方面に關係せる筈非常に面倒なるゆへ其筋にては之れが統一を謀る筈にて目下調査中なりと云ふ

山中鹿之助

第四十一回　西尾麟慶演

玆に鹿之助は早川鮎之助に別れまして攝津國に乘込んで參りまして楠正成公の墳墓へ參詣致しまする、元より此の鹿之助も勤王家でありまするから、楠公の忠義なるを大ひに慕て居ります、是より船の便りを求めて何れへか參らうと、未だ指して行く處も定まりませんが船待を致すの心得でありましてぐ船附のある處に聊か人家も御座りまするから、其處へ行ふと濱邊を眺めながら横道へかゝつて參りますると、大勢の人が群集を爲して居ります。ヤア喧嘩だ／＼面白い喧嘩だ、何うしても片方が强いから勝だらふと、立騷ひで居ります、鹿之助は何んであらうと立寄て見ると、一人の雲つく計りの大の男、年の頃は最早四十にもならんとする、色の黑い頰髯を生し、胸毛を現し朱のくり千段長やかなる大刀を帶し、刀の柄へ手をかける居る、又其向に一人色白くして如何にも瘦方の柔和の男がおります、年は三十に近からうと思ふが、其傍に十八九の色白く致して如何にも美しき婦人が一人立て居ります、此の女は遊女らしい樣子で御座ひます、遊女抔と云ふものは一目見れば直ぐ知れるもので、殊に其儘廓を拔出して來た姿をして、緋鹿子の襟に緋縮緬の長襦袢上へ着ましたのは緋の山繭縮緬の胴着、夫に袖を腰より下が裾の廻りが紫縮緬黑天鵞絨の腹合せの帶、是をグル／＼と卷付け、赤い緒に重ね厚の上草履を穿て、男の側に慓へて居ります、男は黑羽二重の紋附、白博多の鼠色に古ぼけた帶にて、いかさま人品は好ございますが、何んと云ふ姿かをかしな支度で御座ひます、此の婦人は難波新町の吉田屋と申す貸座敷の抱へ浮舟と云ふ遊女で御座りますが、今此の浪人の跡を追かけてまゐつたものであります、夫を又追かけて參つた此の熊井大五郎

大「是れ婦人を渡せ　浪「お渡し申す事は相成らん　大「然らば立上つて勝負いたせ　浪「勝負を致すには拙者には兩腰が御座らんされば貴殿の小刀をお貸下され　大「戲けた事を申すな、自分の刀を人に貸して、試合をすると云ふ奴があるか、刀が無くて立合が出來んとなれば女を渡して了へ　浪「夫は女をお渡し申しても宜しいが貴殿には女が從ひませんからお諦めなさい　大「從ふも從はぬもあるものか畢竟其方があるからだ、拙者今まで此の婦人の爲に何百兩と云ふ大金を費つて居るか知れん、渡さんとあれば是非とも試合を致せ、其方の首さへ取てしまへば我に從ふに相違ない、サア立上つて勝負をいたせと、再三迫られましたが、彼の男は刀を帶して居りませんから困つて居る樣子で御座ひます、之を鹿之助見て居りましたが何うも、輸留にならず、依て人を押別て這入つて參りまして大五郎に向ひ　鹿「アイヤ貴殿等の事は始めより聞かざれば相分らん事であるが、併し只今までの樣子を此處で聞き及んで居ると、貴公が大分此の婦人に念をかけて居る樣子であるけれども、見まするに彼の婦人は遊女だ元より遊女抔と云ふものは取るに足らんもので、一家の妻といたし奧といたす樣なものではないので、今此の婦人を見るに彼の男に附て往ふと云ふが、貴殿には望みがないらしい、人の心を曲て强て彼の婦人を連て參つた處がお爲にはなるまい、お諦めあつては何うだ　大「イヤ貴公は何處のお武家か知らんが、折角の事なれど夫は諦める事はなりません、彼の男があればこそ婦人が左樣な心も出たので、彼の男さへなければ必ず拙者に從つて居るものに相違ない　鹿「されば貴公其時分に早く根引してしまへば宜かりしに今となつては彼の婦人が何うしても彼の男を諦めない、夫を貴公が先方の男を殺して婦人を連れ參つて決して貴公の爲にはなるまい、此の女ばかりが女でなければこそ諦めなすつては如何で御座る、大「手前も武士一旦思ひを掛たる婦人を他人に連れてゆかれては勘辨ならん

東京電報(十七日)

▲寺内總督の歸任

寺内總督は今二十日午後三時二十五分新橋發車にて歸任の途に就けり途中二三泊して京城着は二十四日の豫定也

▲朝鮮貴族大禮服

今回皇室令にて朝鮮貴族有爵者の大禮服を定められ明年二月一日より施行(本令は施行の日より一年間特に燕尾服を代用する事を得と定めらる)

▲佐伯技師渡鮮

遞信省技師兼線電信調査委員佐伯美津留氏は先頃來大連市に出張中なりしが今回朝鮮に出張を命ぜられ近日渡鮮の筈

▲鐵道協會幹事會

今二十日午後鐵道協會に於て幹事會を開き次期の同會總會は明年五月中旬朝鮮京城に於て開催すべく決定せり

▲二十七議會の成立

第廿七帝國議會は今朝成立せり

▲各政派の頭別

政事季節に入りたるため各政派は活動を開始せり今朝衆議院議員の黨派別けは政友會二〇四國民黨九三中央黨五一猶新會一八無所屬一二と確定せり

▲長谷場議長の晩餐會

長谷場衆議院議長は二十二日開院式當日の夜各大臣貴族院正副議長兩院輸長其他を議長官邸に招き晩餐會を開く筈

▲飛行機演習

昨日代々木練兵場に於て飛行演習を行ひたるに徳川大尉座乘のファルマン式飛行機は約一千八町を飛行回轉し又日野大尉座乘のグラーデー式飛行機は約十町飛行して何れも好結果を得たりと

▲渡英艦隊司令官

英國皇帝戴冠式に參列すべき帝國艦隊の司令官は島村海軍中將に多分決定すべしとの事なり

雜報

●監獄改善の急務

監獄改善の急務に就ては我が社の屢々唱導したる處なるが過般來約一ヶ月間の豫定を以て全州、群山、木浦、光州、馬山等の各監獄同支署等の巡視を遂げ歸任せる司法部神野事務官の談に曰く歸任匆々事務多忙なるを以て何等具体的希望を言明するを得ざるも要は唯だ各監獄の狹隘と作業場設備なきは最も遺憾とする處なり全州、馬山、光州、木浦の監獄に至りては一坪に六人乃至八人位の囚徒を收容し居れり一見取締上及經費の點に於て便利なるが如きも其害や大也一例を擧ぐれば偶々誤て微罪を犯したる初犯短期の囚徒をして彼の幾回となく監獄に出入し監獄を以て殆んど常住とせる賭博詐欺其他の浮浪者即ち慣習的の犯罪者と居席を同ふせしめなば初めは偶發的の犯罪者として監獄の鐵門を潜るに當りては戰々恟々皆はんと欲して言ふ能はざりし處の者も居る事幾何ならずして監獄の畏るべき所に非ざる如く感知するに至る斯くては監獄の目的たる懲戒感化は思ひも寄らず却つて犯罪を助長せしむるの弊害や大なり故に刑罰の裏面目を保ち犯罪者の共同を防遏し惡友を絶ち囚徒の健康を保全する上に於て一日も早く監獄增築の必要なるは言を俟たざる處なり尚は各監獄の作業工場の設備なき事是れなり監獄署に於ける作業は懲戒感化の一大要素にして課程を勵行し勵精の良慣習を養ひ以て怠慢を矯正し且つ作業を習得せしめ再犯を防遏し一方監獄經濟の一助たるに今回巡視したる各監獄の作業に從事し居る囚徒は在監人十分の一若くは二位にして他は何れも雜居して何等爲す處なき有様なるを以て増築工事に連れ作業工場の設置は第二の急務なり云々

●敎育方針の決定期

朝鮮兒童に對する總督府の敎育方針に關しては目下内務部學務局にて考案中にして曩に編輯課より注意書を配布して畧ぼ其敎授方針等を示したるも未だ確定せる敎育方針に關しては當局の意志を推知する能はざるの狀態にあり當局者も殆んど五里霧中に彷ひ居れるが右敎育方針に關して昨紙所報の如く寺内總督も非常の趣味を有し既に慶應義塾幹事たりし石田新太郎氏に其の調査を囑托したれば今回歸任後何れにも決定すべく且つ大体に於て明年の新學年に至らば總べて面目を一新せんの計劃なるを以て遲くとも三月上旬には一決さるゝと同時に發表さるゝに至るべし

●揚柳植付の勸奬

總監府時代に於ては各道に命を下して風致上並に實用的より河川の堤防に楊柳の植付を勸奬し其種類は男楊顆折柳等なりしが爾來各道に於ては鋭意其植付に從事したる結果成績頗る佳良にして取分け咸鏡道方面は見るべきものあり其楊柳の下には萱を植付け居れるが這は堤防保護のみに非ず又燃料に供するより一擧兩得の利を見る事なれば總督府に於ても今後益々其植付を勸奬し獨り河川の堤防と言はず溝渠の附近は勿論部會の隨處にも行路樹として植付け風致を添ふると同時に衛生上の裨益をも相圖する方針なりと云ふ

●韓銀新一圓券

先頃來豫告され居る韓國銀行新銀券一圓券)は愈々二十一日より發行する事となりたり折柄歳末に相當するにぞ本月分の俸給は該新銀券にて支給するとの事なれば殊に年末にもあり二三日中には諸方面に新券の流通を見るべし因に韓銀に於ける年内の發行額は六十萬圓なりと

●大邱最近戸口數

▲最近の調査に係る大邱府及び市内戸數[illegible]の如し▲大邱府一圓 戸數二萬[illegible]八百二十四戸 人口九萬百八十三(內男四萬九千八十八人女四萬一千九十五)▲大邱市内 鮮人六千[illegible]內地人千六百七十八戸人口鮮人二万三千七百二十八(男一万三四百八十一人女一萬二百四十七)內地人六千三百六十三(男三千四百三十一人女二千九百三十二)

相塲電報(二十日)

(明治町西村支店着電)

▲大阪株式(二月限)

銘柄		(前日後場)	(當日前場)
▲神戸電燈	寄	三七、六〇〇	三七、三〇〇
	引	三七、六〇〇	三七、二〇〇
▲京阪電鐵	同	五九、四〇〇	五九、三〇〇
	同	五九、四〇〇	五九、三〇〇
▲鐘淵紡績	同	一〇三、九〇〇	一〇三、八〇〇
	同	一〇三、五〇〇	一〇三、九〇〇
▲日本郵船	同	九七、四〇〇	九七、二〇〇
	同	九七、五〇〇	九七、七〇〇
▲東京株新	同	一二七、八〇〇	一二七、〇〇〇
	同	一二七、七〇〇	一二七、九〇〇
▲大阪株式	同	一三九、七〇〇	一三九、七〇〇
	同	一四〇、二〇〇	一四〇、五〇〇
▲同直取引	同	一三八、六〇〇	一三八、五〇〇
	同	一三八、七〇〇	一三九、四〇〇

▲大阪期米(十九日)

▲前場十二月寄十四圓五十錢▲一月止五十八錢▲二月止九十七錢▲後場十二月寄十四圓五十錢▲一月寄五十八錢▲二月寄九十六錢▲十二月止不明
●同(二十日)前場十二月寄十四圓五十三錢▲一月寄五十九錢▲二月寄九十六錢

▲仁川米豆取引(十九日)

▲後場十二月寄出來不申▲二月寄九圓五十五錢▲最高七十一錢▲最低五十四錢▲止七十一錢
●同(二十日)前場十二月寄出來不申▲二月寄九圓七十五錢▲最高七十五錢▲最低六十五錢▲止七十錢

●現今の調査法規

高等法院會議室に於ける法律取調委員會は連日倉富長官委員長に渡邊高等法院長國分寺の兩檢事長安住民事課長の各委員列席各法規立案審議中なるが目下同委員會の審議に屬する重要法規は朝鮮人に適用すべき民事問題にて該法の一部たる外國歸化法同、民籍法同民籍準據法等は昨今調査大に進捗したるを以て近々決定の上議會の協賛を經其の發表を見るに至るべし尚は土地收用法其の他數個の法規は近く法制局に回付の上制令を以て行政法規は寺内總督歸任の上發表すべしと云ふ

●辯護士の資格

去る十五日制令を以て辯護士資格發表せられたるは既報の如くなるが同規則によれば從來理事廳に於て認可し來れる特許辯護士に對しては何等明文なきを以て由來既往の事件に就ても中止の姿に在りしが司法部は此の弊を補はんが爲め今回既往の事件に就ては從來の通り取扱はしむる事とし他は訴訟法に依る認定主義を採るべしと

●新年祝賀と領事

從來韓國統監政治時代に於ては在京城の各國領事は各々本國を代表して駐在國の宗主權代表者たる統監に對し新年の賀儀をなし來りて既に伊藤第一世統監時代より慣例となり來りたるが本年は併合の結果駐日本國大公使に於て賀儀を擧げるより例年の如く儀式めける事なくて單に駐在領事として總督に答禮する迄なりと

經濟協會と產業振興

當地經濟協會が其十一月の例會に於て產業振興に資するの目的を以て今後每例會に產業に關係を有する各方面專門家の臨席講話を乞ひ同時に專門家に向かつて種々の質疑を爲し或ば會員各自產業に關する意見の交換を爲すことに決定したるは既報の如くなるが同協會は來る廿二日午後六時より本月例會を京城ホテルに開催し第一着に農商工部殖產局農務課長中村彥氏の臨席を乞ひ農業に關する講話を聽き同時に農業に關する質疑應答ある由なり

●清公使仁川視察

清國公使汪大燮氏が廿日午後十時二十分歸城のことは別項所報の如くなるが同公使は二十二日更らに仁川に向ひ清國居留地の視察を遂げ二十三日寺内總督の入京の際に歸城すべしといふ

●貨幣發行高週報

十二月十一日より十七日に至る發行高週報如左

一銀行券總發行平均高	一九、五二六、七七一
內	
正貨準備發行平均高	六、七六四、三二一
保證準備發行平均高	三、七六二、四五〇
四 硬貨發行高(十二月十七日現在)	五、〇五一、五五〇
內	
金貨二十圓	一、八五〇、〇〇〇
同 十圓	五〇、〇〇〇
同 五圓	五〇、〇〇〇
銀貨五十錢	一、三七四、五〇〇
同 二十錢	二、〇二〇、〇〇〇
同 十錢	一、八九六、〇〇〇
白銅貨五錢	五八二、三〇〇
青銅貨一錢	三四六、二〇〇
同 五厘	八二、三五〇

●定例長官會議

二十日午前十一時より總督府新廳舍會議室に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富、石塚、木內、宇佐美の各部長官、明石警務總長、俵副總裁、池田通信局長、鈴木局長列席政務の打合せを爲したり

●市原總裁の招宴

市原韓銀總裁は二十一日午後六時より國境視察の爲め來鮮中の汪清國公使の歡迎を兼ね山縣政務總監、各部長官、小松局長、清國領事及藤波、池邊、本多の諸氏を同邸に招待し晩餐會を開く筈

●總長邸の茶話會

在京城の各憲兵分隊長、警察署長警務總督部の各課長等は今二十日午後七時より明石總長邸に於て茶話會を開き打合せを爲したりと云ふ

●軍司令官の招宴

十九日夜着任したる新任軍參謀長柴少將の歡迎及び前榊原參謀長の送別を兼ね昨日午後六時より大久保軍司令官の招宴ある筈なるが右晩餐會には山縣政務總監を始めとして京城各部長官及び小松外事局長、國分人事局長、藤波通譯副官等も列席する筈なり

●榊原少將送別宴

來る二十四日午後六時より總督府各文官の發起にて元參謀長榊原少將の爲めに送別の宴を花月に開催の筈にて各部長官明石總長各局長以下五十餘名列席すべしと云ふ

●榊原少將の招宴

二十二日午後二時榊原舊參謀長は京城ホテル於て朝鮮の貴族及知名の士を招待する由列席人士は約五十名なりと

●柴參謀長の挨拶

十九日夜着任したる新任軍參謀長陸軍少將柴勝三郎氏は二十日午前十一時十時副官を隨へ總督府に山縣政務總監以下各部長官明石總長を訪ひ新任の挨拶を爲したり

●檜垣道長官

檜垣道長官は曩に病を力めて出廳せしも其後全癒に到らず兎角健康勝れざるに付き一兩日前より自邸に引籠り專ら加療中なり

●青田中佐の奏任披露

二十日龍山兵器支廠所長砲兵中佐青田辛吾氏奏任披露の爲め軍司令部を訪問せり

●櫻井度支部財務部長

京畿道廳櫻井財務部長は振威烏山方面の視察を了へて廿一日歸廳の筈なり

●田中主計正歸任

第二師團經理部長田中主計正十九日歸任す

●齋藤山林課長出勤

農商工部俱樂部發會式に際し負傷の爲め休養中なりし山林課長齋藤音作氏は平癒二十日より出勤したり

●中山所長の轉居

京城地方裁判所長中山勝之助氏は去る十七日太平町(西小門内)第十八號官舍へ轉居せらる

電燈の故障に就き

電車課長廣瀨範敏氏談

過日來電燈明滅屢々なるより官衙は勿論一般使用者の不便尠らず批難の聲頗る高まりたるを以て本紙記者は今回會社に就き右原因の辯明を求めたるに同會社電車課長廣瀨範敏氏は會社を代表して大要左の如く辯明したり

過般來度々故障がありますので警務總監よりは勿論一般使用者の方から非常に小言を頂戴して居る譯ですが其の原因と申すのは外ではありません實は今回業務擴張の爲めに新に發電機五百キロを一臺購入いたしまして目下据付中なんです据付と同時に舊の發電機二百五十キロと取り代へて使用するのです即ち從來は二百五十キロ二臺及び百二十キロ一基七十五キヨ二臺を以て電車へも電燈へも一所に電流を送つて居りましたのを今回新設しましたものを專ら電燈の方に用ゐ二百五十キロ二臺を電車の方に用ふる計畫ですから爾今は電車に故障がありましても電燈には影響せぬことになります、こう謂ふ事情で目下試驗中ですがつまり「キリカへ」を遣りますさきに起る故障ですから、遠からず回復するのです、が來月十日頃まで六ケ敷と思ひます、而し愈々電柱も立ち線も引きますれば從來よりは電車も電燈も好くなる筈ですから年末に際して一般使用者の方へは誠に申譯がありませんが右の次第ですから不惡思ふて戴きたい云々

●鎭南浦營業者別

同民團役所の調査によれば十一月中に於ける同地の營業者は合計六百四十三にして之れを昨年同期の五百五十九に比すれば約百名近くの增加ありたりと云ふ可く各町に多かりし空家を充實するに至れり而して同月中に開業したるは▲菓子一、豆腐一、飲食二、酌婦八の十三にして廢業は▲雜貨一、古物一、大工一、女髪結一、遊藝師匠一、娼妓二、酌婦十六の二十三となり開業よりも廢業多數なるを見るも此は酌婦十六の廢業したるに依るものにして一般の正業者は益々增加する有様となり例年今期は歸國する者多き爲め多數の正業者廢業する者ありたるが今年は歸國する爲めに廢業する者僅少なりと之れ平南鐵道開通の結果歸國の何時にても容易なるが爲めにして又一は市況の活潑に起因すと云ふ

●南浦の市場計畫

同地には一定の農產物市場なきを以て價格の統一を缺き且つ販賣物は多く街路上に陳列し市街の體裁上より言ふも將た衛生上より論ずるも弊害少からざるより富田儀作氏等首唱となり一萬二千圓の農產物市場株式會社を組織するの計畫あり贊成者尠からざるを以て不日發起人會を開催し實地計畫につき協議す可しと

●苗木分配の願出

目下滯京中なる秋本平壤府尹に依托して鎭南浦殖林組合は京畿道廳に對し北海ドロ、米國モミヂヘラの苗木分配方を願出たるところ道廳にては詮議の末五千本丈け分配する事に內定したる由なれば不日許可の手續に及ぶなるべし右二種の苗木は城內の苗圃に培養しあり

●東亞漁業創立總會

朝鮮方面に於ける漁業を目的として山口縣山口に創立事務所を設け居る東亞漁業株式會社創立總會を十八日午前九時より山口栄香亭にて開催せし由

●丸龜市長の來城

丸龜市長藤好乾吉氏は朝鮮事情の調査及び移住計劃の要務を帶び市公吏を隨へて十九日入京滿尾旅館に投宿し居れりと

●仁川商業臨時總會

仁川商業會議所臨時總會は既報の通り十九日午後六時開會左記の件を決議したり四十三年度收支決算報告の件、大連芝罘へ視察員派遣の件尚伊藤猛彥氏の補缺選擧を行ひたるに森十八銀行支配人當選

●大邱信用組合設立

大邱には韓銀及農工銀行ありて能く金融の圓滑を保ちつゝありと雖も兩行共夫々制規の下に拘束され充分に貸出しを爲さゞるを以て下級實業家は比較的利用するの機少なく從つて高步の資金を運用するの餘儀なき場合往々あり斯くては實業の發展上寒心に堪へざる次第なるを遺憾とし町田、伊藤吉、永井、藤縄、岩瀬、加藤の諸氏は近き將來に於て純粹なる商業銀行を設立するの必要を認め其準備として先づ信用組合を設立して資金の增殖を企圖し立案して同志に諮りしに何れも異議なく贊成し十八日明石に於て其創立總會を開き左の如く決定

一 信用組合は民法上効力ある法人組織とすること
一 組合員は三十名を限度とす
一 每月掛金二十八圓とし三十六ケ月掛込み總額を三萬圓となすこと
一 掛金は低利を以て之を貸付すること
一 組合統一の爲め役員五名を設く
一 本組合は三ケ年間繼續すること

其外詳細なる事項は追て掲ぐべきが大要右の決議を爲し役員を選擧して散會したりと云ふ

●選擧運動と取締

每回民團議員の改選期に際しては各候補者及び選擧有資格者の間に如何はしき風聞の起ること珍らしからざるを以て當局に於ては選擧名簿に包含せらるゝ者に對し近くそれ〱內達を爲す一方嚴重に取締りを爲す方針なりといふ

●税制調査會延期

過般新たに設置せられたる京城民團の税制調査會は年内に一回開き委員長の選擧、委員の分擔等を定むる筈なるが民團役所にては選擧名簿の調製に忙殺せられ一方委員を囑托せられたる人々の中には選擧運動に着手せる等彼此暇なきを以て年内には開會すること六ケ敷かる可しと

●工業傳習所卒業式

同所に於ては來る二十二日午後二時より第三回卒業證書授與式を擧行すべしと

民團議員選擧に付

龍山議員 川本隆治氏談

元來自分は虛弱の身にて議員の職を汚がして居つたのも畢竟は民團そのものゝ生命が年内に解決を告ぐるであらうと思つて碌々として今日に及んだのは實に汗顏の次第です、一體龍山議員は京城よりは總て繼子扱ひにされつゝあつて實に慨すべき次第であるけれども亦如何ともなすことは出來ない、併し自分は敗將兵を語らずで固より辭任する積ですが、願くば將來是非共龍山よりは數の上よりは寧ろ實力ある議員を撰出して充分自治の發展を謀ることに爲したいと云ふのが自分の希望であるが、吾れ人共に如何せん日常の生活問題と云ふ煩はしいことが附き纏つて自然に市政に就ては不熱心になり易いが個人と國家とは別物として優良なる議員を撰びたい(文責在記者)

公人私人

▲尾崎俊甫(金融組合理事)十九日退京
▲吉田豐次郎(關東都督府事務官)來京
▲山中鉄(源州判事)は水原へ
▲中澤金吾(驪州判事)同上
▲穗永直吉(公使館付)は釜山
中の[illegible]釜山へ

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客(十九日)の分
乘車客 七三三 下車客 六九八
乘車賃金 一四四七、〇五〇

▲南大門驛荷扱高(十九日)の分
發送 五五噸 到着 四四四噸
發送賃金 八二六、三五〇

▲龍山驛の乘降客(十九日)の分
乘車客 一九六 下車客 八一四
乘車賃金 二二八、四七〇

▲龍山驛荷物扱高(十九日)の分
發送 一噸 到着 五〇七噸 賃金 一一五、八八〇

▲仁川港の船舶出入▼

勝利丸 廿一日大阪へ向出港
神代丸 同 大阪へ向出港
音羽丸 同 横濱へ向出港

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
十二月二十日	二四八、〇五六、二三	[illegible]四七

▲治外法權▼

寺内總督は愈近日の中に歸つて來る、記者は總督が議會開會前多忙の身を以て任地を見舞はるゝを御苦勞に存ずる▲サテ總督が此寒氣に向かつて折角來られるとして見ると總督府の大小官吏等も安閑として「ストーブを圍んで許り居る譯には行まいと思ふ▲有吉總務部長官が萬朝記者に向かつて東洋拓殖會社は無きに優ると云つたのを大に咎め立てをして居るものがあるがソレは咎める方が無理だ、有吉長官と云へば濡柳の質で寡言の人だ、此人にして東拓を無きに優ると云ふ、ヨツポドでなければ云はぬ筈だ▲東拓側で有吉長官の言を失言として責めるならソレはゴ勝手だが、一體溫順な長官をして斯かる言を公にして憚らざる樣にさせたのは誰の罪だ▲佐賀、長崎、熊本、福岡等四縣の漁業者等は平安北道沿海に於ける鮟鱇漁業權を東拓から取返さんが爲めに內閣總理大臣及朝鮮總督に向かつて過日請願書を出したが、まだ何とも沙汰がないため四縣知事をして政府に向かつて陳情せしめるソウだ▲一體鮟鱇と云ふヤツは潮時を知らずに大口を開て餌の流れ込のを待て居る魚だ、其躰の大にして遲鈍なる所はヨク東拓に似て居る、東拓と鮟鱇漁業權共喰と云つべしだ▲今度當地に油房を起す者があるソウだが算盤がトレルかドウか、一體朝鮮大豆は食用乃ち豆腐、味噌、醤油等を造るに最も適當して、油餅となして肥料とするにはアマりに上等過ぎる、油房計畫者は此邊の研究をしたか▲此頃は電燈がやたらと消滅するから日韓電氣會社へ詰問したら、別項記載の如き辯明に接した、電燈新設備に關する內情はさもあらんが、高い電燈料を拂ふ顧客の身にもなつて見るが良いさ、來月十日迄は待つてやるが其さきはきかねぞ▲日韓瓦斯と云へば今度市内の電車停留所が極つた、而るにドウ云ふ譯か乘降客の最も多い明治町入口、長谷川町入口、本町入口等を停留所から省いた、嗚呼會社は朝鮮人本位か。

●大邱最近戸口數　最近の調査に係る大邱府及び市内戸數人口の如し
▲大邱府一圓　戸數二萬八百二十四戸人口九萬百八十三人内男四萬九千八十八人女四萬一千九十五人
▲大邱市内　鮮人六千百四萬内他人千六百七十八戸人口鮮人二万三千七百二十八（男一万三[illegible]四百八十一人女一萬[illegible]二百二十八人）内地人六千三百六十三人（男三千四百三十一人女二千九百三十二）

▲相場電報（二十日）
（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（二月限）

		前日後場	當日前場
▲神戸電鐵	寄	三七、六〇〇	三七、三〇〇
	引	三七、六〇〇	三七、二〇〇
▲京阪電鐵	同	五九、四〇〇	五九、三〇〇
	同	五九、四〇〇	五九、三〇〇
▲鐘淵紡績	同	一〇三、九〇〇	一〇三、八〇〇
	同	一〇三、五〇〇	一〇三、九〇〇
▲日本郵船	同	九七、四〇〇	九七、二〇〇
	同	九七、五〇〇	九七、七〇〇
▲東京株新	同	一二七、八〇〇	一二七、〇〇〇
	同	一二七、七〇〇	一二七、九〇〇
▲大坂株式	同	一三九、七〇〇	一三九、七〇〇
	同	一四〇、二〇〇	一四〇、五〇〇
▲同直取引	同	一三八、六〇〇	一三八、五〇〇
	同	一三八、七〇〇	一三九、四〇〇

▲大阪期米（十九日）▲前場十二月止十四圓五十錢▲一月止五十八錢▲二月止九十七錢▲後場十二月寄十四圓五十錢▲一月寄五十八錢▲二月寄九十六錢▲十二、二月止不明
●同（二十日）前場十二月寄十四圓五十三錢▲一月寄五十九錢▲二月寄九十六錢

▲仁川米（現取引）（十九日）▲後場十二月寄出來不申▲二月寄九圓五十五錢▲最高七十一錢▲最低五十四錢▲止七十一錢
●同（二十日）前場十二月寄出來不申▲二月寄九圓七十五錢▲最高七十五錢▲最低六十五錢▲止七十錢

活動寫眞　覆面子

十九日 夜の南大門驛

生暖るき風は雪にもやならんか天空一點の星なく街上人稀れに、電車音なく過ぐる十九日の夜、颯然として南大門驛の人となつて先づ三等待合室はと見れば、驚く勿れ、暖爐の兩側に

眠れるヨボの巡査二名は、果して如何なる夢をや結ふ、信夫號と染拔き半纏の職人が「やー何處へ」と聲掛けし一人の男に「もー京城もあかん釜山へ行くんだ、こゝへ來て馬鹿を見た」と嘆聲そゞろに長い

ボアの美人

一等待合室は未だ人なく、只、ボアの美人、嫣然としてベンチに凭れるのみだ、僕の視線は、ちらと觸れた

咸鏡南道

咸興憲兵分隊行中尉畑中延太郎荷物十八個の内と書いた細長き木箱が目に着く

讀めたりな美人の素性、對中尉、喃々の聲は小さく情緒は長い妻か、妹か、……妻であらう、いや妻であらねばならぬ

剝製の鶴二羽

は六尺有餘の大籠に包細せられて取扱注意新橋と記されて傍らに東京日本橋と書いた箱があるが文字は包細の爲めに讀めぬ、

コレア、アストルハウス　ホテルとか、フジヤホテル、ハコチジヤツパン、とか種々の横文字ベタ〳〵と貼付されたる、トランクは一人に依りて其行衛を知つた、彼れは之れを托するに平沼に命じた、

新義州以内の荷物

南行の列車はプラツトホームに進入して、京城に入れる男女は流れ出た、が驚くを止めよ手荷物僅に十一個之れぞ總て京城を飾るべき唯一の要素だ、原料だ、と思へば窃かに嘆ぜざるを得ない、

午後十時四十三分

長蛇の如き列車は、瀏き光りを投げてグードバイだ

更け行く夜は寒く、雪さへ霏々として降りぬ、去れる中尉よ、美人よ、希くは健在なれ、

寒夏秋多過等閑　遊子至今思故郷

と微吟しつゝ、人なき停車場を出た。

第二回歌留多大競技會

▽愈々正月第二日曜日

愈々新年正月第二日曜日（一月八日）を以て開會の事に決定致し候會場は競技者諸君の散集に便利なるべき個所に付き目下詮衡中に御座候へばコツ追て紙上を以て發表仕るべく今日迄に於て決定したる條項は一等金メタルは本社に於て寄贈の筈なりしが森山日韓書房主の希望に依り其の寄贈に仰ぐこととし本社は之れに代へて銀時計一個を金メタル受領者に贈呈することゝしたり尚二等以下十五等迄の戰士に贈呈すべき賞品は泥峴街各商家の店頭に陳列さるべく候、團体の競技加入者には通信局、鐵道局各有志、うれから會、仁川紅葉會、いづみ會等にして前回の最優者たる山根君（鐵道）横岡君（通信）及び斯界の老武夫稻葉君（鐵龍山）前回の入選者和田山君（鐵大邱）梅宮君（鐵新幕）新進の戰士にはそれからの岡宮子を筆頭に數を盡して出陣せらるべく猶は個人としての申込は頗る多數なれば無名の猛者も多かるべし、されば當日の壯觀は蓋し想像の外に出べし會費は五十錢にして茶菓を呈すること前回の通りに御座候

●仁川料理店移轉問題

先年當地稻田勝彦氏の仁川發展の一端として舊石洞の一部に料理店向きの家屋十餘軒を建築し各料理店に貸與へて今日の猫島一廓をなすに至れるが是に反し東部料理店組合にては本月六日同組合代表者なる寺町耶馬溪事岩波一作岡花町三日月亭事金村仁平其他の組合員と敷島遊廓組合員と一山樓にて會合し移轉の場所及其他の件に付き協議を凝せし結果本町一丁目樋口平吾氏が敷島裏手に五千餘坪の空地を所有するを以て同氏に懇談して右地面を借受け敷地となしそれに家屋新築の事も同氏の力を仰ぎ金主となさんとを懇願する事に協議一決し双方組合より總代を撰定し樋口氏に交渉をなせしに同氏も移轉問題に就ては仁川風紀取締上よりも大に賛同し居たる事とて快く承諾の旨を告げ先づ五千圓を以て家屋十軒を新築して貸與し尚市中の小料理店飲食店にて該地へ移轉したきものあれば增築する事とし此れが返金の方法として積立金を設けて返濟する事に交渉纏り去る九日を以て樋口氏及双組合員連帶にて請願せしより其筋の許可を得て工事に着手し來る四月迄には竣工の豫定なる由右許可を得て同地へ移轉の運びに至れるは仁川の風紀も大に改善すべく又た不景氣を歎し居たる遊廓も自然素見客も多くなれば從つて遊客の數も增すべく一擧兩得と云ふべし

寒い職業（張物屋）

●店員共謀の窃盜

旭町二丁目牛皮賣買并に石鹸製造所渡邊文次より牛皮十三枚（代百圓）の盜難屆に因り南部署村上刑事は直ちに臨檢せしに盜害の方法等が如何にも外部より爲したる形跡なく内狀を知るものゝ所爲と認定し同店の職人若しくは店員等の擧動に注意し佐藤川副の二刑事が犯人搜査に從事中職人なる文昌植が身分不相應の美衣美食を爲し缺勤のみ爲す事探知し犯人は文昌植なりと認め本署に引致取調たるに職人韓聖圭（二六）と共謀して窃取せし事自白に付韓聖圭を引致取調べたるに犯罪を自白し更らに馬世根（二五）及店員長崎縣上來郡杉山村中村米作（二〇）等が他に窃盜爲し居る事暴露せしより右二人をも引致取調しに四十餘圓に相當する金品を窃取したる事判明せしを以て司法主任に引渡せり

●判決二件

靜岡縣加茂郡南上村下小野九十六番戶當時仁川山根町居住山田喜作が度支部技手在職中不正行爲ありて豫審終決公判に付せられたる事は既報の如くなるが該事件は京城地方裁判所に於て審理中の處昨二十日懲役六ケ月に處せらる▲既報奧村千里は懲役六ケ月に處せらる

●新町遊廓の改良

新町遊廓にては毎年正月三日間は紋日として花代割增ありしが明年正月は之れを全廢として平常通りとなすべく協議一決したりと

●京城時計振興會

本町一丁目河島敏外八氏時計商共同して京城時計振興會なるを組織し右會員募集に付き其筋へ認可出願中のところ十九日若干の條件を附して許可されたるが還は世上往々見受くる時計購買會と大差なしと

●高等漬物大賣出

京城本町二丁目漬物商日下部商店にては聯合賣出しに加盟し新着商品高等奈良漬京都產繩千枚漬等を大々的勉强を以て賣出し居るが歲末の進物用に適當なる可し尙は御買上一圓毎に景品券一枚を添付する由

●山口吳服店の大勉强

本町四丁目山口吳服店は聯合賣出しに加盟し去る十六日より三十一日迄買上高一圓毎に景品券一枚添付の外現金に限り破格の添物迄進呈する由なり

●浪花館

初日より大人氣なる浪花節京山北星一座二十一日演題は白石噺（虎奴）後藤又一郎（虎吾代）水戸黃門記（隅圓）大久保彦の丸（小虎丸）石山軍記（虎丸）義士銘々傳、左り甚五郎（京山北星）なり

樂しきクリスマス

●旭町二丁目日本メゾジスト敎會に於ては來る十二月二十四日午後七時より左の講演あり第一部司會長細井鋒吉氏にして順序は左の如し

讃美歌（第五十九）聖書朗讀、祈禱、讃美歌クリスマス、祝詞、頌歌表情、談話、表情唱歌、聖句暗誦、唱歌（天兵、無敵）聖書暗誦、軍歌、讃美歌、對話アレキサンドル一世、談話（英語）讃美歌（兩我が家）對話、讃美歌（聖降誕）對話、讃美歌、對話（四君子）頌榮之辭二部合唱、感謝之辭、慈善之爲め、獻金、賞品授與（贈品）頌歌（四百六十二）祈禱

右終りて茶菓の饗應あり第二部司會者は細井敬一氏にして順序は薩摩琵琶、活人畫、手品、談話、頌歌其他種々ある由

●京城日本基督敎會日曜學校にては同日午後二時より南大門通り廣通館（天一銀行階上）に於てクリスマス執行司會者橋本金太郎氏にして順序は如左

頌榮（四百六十番）聖書朗讀、祈禱、讃美歌（六十六番）開會の辭、歡迎の辭、祝詞、讃美歌（五十七番）對誦、暗誦、讃美歌（心の苔）小供の獻身、演說、讃美歌（四百十七番）暗誦、對話（ヘロデ王と星）小供の心、唱歌（進軍の曲）提灯、演說、暗誦、對誦、讃美歌（二編六十九番）祝詞、演說、讃美歌（よばはりしらせよ）福音傳事場、英語讃美歌（ホーリーナイト）演說、讃美歌（二編六十三番）各國のクリスマス、讃美歌（二編七十二番）徽章及賞品授與、頌榮（四百六十二番）祝禱にして閉會後贈物ある由

●龍山八景園の彈初

龍山八景園の姐さん達が此の忙しい年の暮に自慢に作りになつた新年初びきの歌を一寸御披露致しましよう

▲年の始に早咲の梅の初花花の顏ニツトほゝ笑むれもかげをてらす影さへまだ肌寒うそつとさし込む窓の月

▲龍の山邊に年たちて心ものぶる高殿に明けて嬉しき障子ごし八つの景色を盃にうつして二人汲む屠蘇の醉を吹かるゝ梅の風まだ早咲の肌寒うほころびそめし面影をのぞくも嬉し月の影

歌留多早取法（五）

▽巧手見る可らず

三、取り方

前項暗記法及並べ方に就いては充分合點がいつた事と思ふから今度は愈々進んで肝腎の必勝心得とも云ふべき所謂斯道の虎の卷に就て話する。先づ第一は眼力である此とは並べ方に於て一寸話したが眼の使用法は歌留多遊びの骨子とでも云ふべきものであるから充分注意して欲しい、相手の札を見ながらぼんやりしてゐるなぞは餘り感心せぬ自分の札を見てゐる間に敵の札が出たり左方を見てゐると右の方の札が讀み上げられたりして飛んだ馬鹿な目に逢ふ、是れ等は初心の人に極めて多い、然らば此目は如何なる方法によつて使用するが最も好いかと云ふに先づ讀方が讀み上げると同時に敵の札の中央部よりして、其左右を一廻轉するのであるそして一廻轉すると同時に一寸自分の札を一瞥し直に再び其の眼を敵の陣中に置くのである、委しく云へば讀方が上の句からして下の句に讀み移る迄が最も眼力を要すべき範圍であつて下の句に讀み移つた頃は記臆の方へ働き方を一任して置いて自分は此で一寸一服するのである、そして下の句が終つて之れから愈々次の札の上の句に移らうとする瞬間又もや凄じき勢を以て活動するのである、初心の人は只眼で見詰めてさへ居ればよいと思つて、のべつに眼ばかり光らして額に青筋を浮かしてゐる、之れでは二三番もやると眼が第一に弱つて來る頭がムヤ〳〵として顏が眞赤になる、一休みせねば辛いなど泣き事を云ふ樣になるだから此眼と頭は別々に使はねば非常に損であることを忘れてはならぬつまり讀方が上の句を讀んでゐる間が眼力の働き場所で、下の句になつたら頭が交代して働くのである、即ち上の句の内に眼力で認めたことを下の句に於て頭が記臆して居て、今度の上の句を讀み上げる刹那頭で記臆してゐる奴を眼に渡す眼の方ではヨシ來たと電光の如く、札を認めて、撥飛ばすのであるそして之れを繰返し〳〵何度も遣るので只平凡の事である、だから此眼から頭へ交代して後と云ふものは眼は塞いでゐて凝つと頭で記臆してゐる方が寧ろ便利である、それを眼は一杯に見張り頭は札全部を暗記しようと思ふて、絕えず此二者を使用してゐる樣ではいざ肝腎と云ふ場合に疲れて仕舞つて手も足も出なくなる、敵の札が見ゐてゐても取れなんだり逸早く手を出した積りのがれ手付をしたりして傍から見てゐても見苦しいものである。

今日の運勢

●十二月廿一日舊十一月十九日七赤大安庚申成△一白●常事小事は亨通大事新事見合せたるべし旅行婚禮礦業に良好△二黑●貸借金談保證連盟結社に忌む其他進んで吉△三碧●新事見合せの事常業と雖も齟齬多しとす色情痴情の破れを戒しむ△四綠●結社連盟協同の事談に吉其他手控への事横領盜失防ぐべし△五黃●貸借保證金談協同結社連盟の事間違ひ易し其他消事△六白●旅行轉任交涉談判分家分業轉業に吉其他の事進んで効無し△七赤●諸事謹慎の事殊に契約婚談調停相談委囑効果らす△八白●人のため出捐出費の日とす貸借保證見合せの事其他進んで吉△九紫●沈衰の日新事旅行貸借賣買調停中裁出願控へ目の事（本町五丁目三一館判斷）

●取消●　拜啓陳者貴紙去る十四日三面記事中に家宅浸入罪にて引致云々の記事御掲載有之候得共事實相違にて昨夕不起訴と相成歸宅致候に付御取消被下度此段御願申上候也
明治四十三年十二月十九日　京城南米倉町六十三番地　渡邊岡吉　印
京城新報社御中

村瀨鎌治郎母いち子儀病氣之處本日午前八時死去致候間此段辱知諸君ニ謹告仕候
追而來ル二十三日午前九時自宅出棺同十時京城南山町本願寺ニ於テ葬儀執行仕候
明治四十三年十二月廿一日　龍山鐵道官舍第廿三號
男　村瀨鎌治郎
同　村瀨末一
親戚　清河純一
同　一木元周
友人　岡正矣
總代　三本武重

景品附京龍聯合大賣出し

賣出期間　來ル本月十日ヨリ同三十一日迄
抽籤場所　京城南山町本願寺
同期日　明治四十四年一月七日
景品引換期間　自同年一月十日至同卅一日毎日自午前九時至午後四時
及ビ引換場所　京城日本人商業會議所內

景品目錄

景品總額壹萬〇八百圓也

內譯

一等　金千六百圓　四十圓宛（債券）　四拾本（一萬本ニ付一本ノ割）
二等　金八百圓　貳拾圓宛（同）　四拾本（同上）
三等　金四百圓　拾圓宛（各店商品切手）　四拾本（同上）
四等　金貳千圓　五圓宛（同）　四百本（千本ニ付一本ノ割）
五等　金四千圓　壹圓宛（同）　四千本（百本ニ付一本ノ割）

以下空籤ナシ

京城聯合繁榮會
（事務所京城日本人商業會議所內）

加盟店は一定の旗と灯燈とを目標と御承知被下度候